

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P15

主な取組	学校経営の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取組状況	①教職員の資質向上(学校指導訪問の実施、各種研修会の実施、各学校の課題研究への支援) ②コミュニティ・スクールの導入							
前年度の課題・改善点	子ども、保護者、地域住民の願いを生かし、地域に根ざした「特色ある学校づくり」の推進							
令和4年度実績	①学校指導訪問実施(13回)。各種研修会実施(28種)。授業研究会及び研修会等への指導主事の派遣(98回)。 ②コミュニティ・スクール導入前の試行を2中学校区で実施(金子中学校区・東金子中学校区)。							
指標及び説明	【指標】コミュニティ・スクールの導入率			【説明】小中学校区へのコミュニティ・スクールの設置状況により、導入率を判断。				
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		—	平時					100
		R2有事	0					R8有事
—							100	
自己評価の主な理由	コロナ禍であるが、感染症対策を徹底し、指導訪問や各種研修会を実施できた。コミュニティ・スクールの試行を通し、令和5年度の全中学校区の導入実施につなげることができた。							
課題及び改善点	令和5年度の全中学校区でのコミュニティ・スクールの導入実施を通し、成果と課題を整理すること。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P15

主な取組	ICT機器を活用した支援						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取組状況	ICT機器を活用した児童生徒の資質・能力の向上 「協働的な学び」「個別最適な学び」を実現する基盤としてのICT機器を活用した授業展開							
前年度の課題・改善点	ICTを「使う・持ち帰る」から学習に「活用」する。							
令和4年度実績	①タブレット授業活用研究委員会の実施(2回) ②ICT支援員の校務・学習支援 ③学校指導訪問や校内研修でのICT機器の使用法の指導・評価の実施。							
指標及び説明	【指標】設定困難			【説明】—				
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	—	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		—	平時					—
		R2有事	—					R8有事
—							—	
自己評価の主な理由	多くの学校で、タブレット端末を活用した学習が行われている。教師と児童生徒がタブレット端末を通して意見の交流や課題の提出などを行うことができ、活用の幅が広がっている。							
課題及び改善点	思考を大切に授業展開を目指して引き続き取り組んでいく。特に児童同士・生徒同士での意見交流等に活用できるようにしていく。また学習支援ソフト等の効率的な活用方法を検討する。							

主 な 取 組	生徒指導・教育相談の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取 組 状 況	①毎学期、生徒指導訪問や巡回訪問等を実施。 ②支援が必要な子どもの把握。 ③福祉、介護等の関係機関や地域との連携を図り、支援サービス等の利用につなげる。							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	事業を継続し、内容の工夫改善を図りながら評価していく。							
令 和 4 年 度 実 績	①生徒指導訪問や巡回訪問を各学期に最低1回以上実施し、各学校の児童生徒の状況、学校の対応状況を把握した。 ②スクールソーシャルワーカーと連携を図り、支援が必要な子どもの状況を把握した。事例に合わせてソーシャルワーカーと情報共有を図り、協議した。 ③福祉、介護等の関係機関との連携を強化し、年間通して50回以上のケース会議・支援会議を実施した。また、様々な関係機関との連携を図った。							
指 標 及 び 説 明	【指標】いじめ解消率						【説明】 生徒指導調査の分析により、12月末現在のいじめ解消率を判断。 なおいじめ問題については、当該いじめへの対応がなされてから3か月の経過観察期間を経て解消としている。このことについては、翌年度4月末の調査をもって判断するため、12月末現在でいじめの状況が改善されていても、その時点で解消と判断することはできない。そのため、解消率は低い数値となる。	
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		68	平時					100
		R2有事	43					R8有事
	72						—	
自 己 評 価 の 主 な 理 由	福祉・医療等の関係機関との連携が図られ、充実した児童支援を行うことができた。なお例年解消率については年度末時点で、2割程度上昇することが見込まれるため、自己評価をBとしている。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、関係機関との連携を密に行う。特に学校と関係機関との連携が強化できるよう支援する。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P15

主な取組	子ども未来室事業の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取組状況	①児童発達支援センターとの連携事業の実施（関係機関連絡会、巡回支援、職員合同研修等） ②CLMを活用した保幼小連携（小学校教職員と保育士による合同CLM研修、CLM実施研修等） ③関係課によるワーキングチーム開催（教育部、子ども支援部、福祉部、健康推進部等）							
前年度の課題・改善点	事業を継続し、内容の工夫改善を図りながら評価していく。							
令和4年度実績	①関係機関連絡会2回実施（いずれも70名程度）、巡回支援、合同研修実施 ②国立障害者リハビリテーションセンターによるCLM研修（11月28日）参加、4カ所保育所にてCLM研修参加 ③切れ目ない支援体制整備をテーマに、システムの導入について検討							
指標及び説明	【指標】設定困難				【説明】－			
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	－	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		－	平時					－
		R2有事	－					R8有事
－							－	
自己評価の主な理由	児童発達支援センターういずの会議に出席し、情報共有を図りながら計画通り実施できたため。							
課題及び改善点	事業を継続し関係機関との連携を密にできるよう、関係課長会を開催するなどソフト面・ハード面共に事業の改善が行える体制を整える。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P16

主な取組	教材・図書等の充実						担当課	自己評価
							教育総務課	B
取組状況	良好な教育環境を確保するため、教育教材、管理備品、図書等の整備・充実を図る。							
前年度の課題・改善点	文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%を目標とし、児童生徒の良書に親しむ環境整備と学校図書の充実のため、引き続き予算措置していく。							
令和4年度実績	令和4年度末の学校図書館蔵書充足率は、小学校88.86%・中学校82.18%の結果となった。また、教育環境を確保するため、教材備品を整備したことで学習効果の向上に寄与することができた。							
指標及び説明	【指標】充足率				【説明】文部科学省学校図書館図書標準			
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		85.90	平時	平時	平時	平時	平時	100
		R2有事	85.52					R8有事
86.36							100	
自己評価の主な理由	小中学校で使用する教育教材、管理備品を計画的に購入することにより、学習効果が高まった。図書の整備については、各学校の学校図書館図書標準の達成（充足率100%）を目指した結果、令和5年3月末の充足率の平均は小学校で88.86%、中学校では82.18%であった。							
課題及び改善点	財政状況は厳しいものの、引き続き学校図書館蔵書充足率100%を目指す。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

【施策】 (1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 16

主 な 取 組	子育て家庭への経済的支援		担当課	自己評価				
			学校教育課	A				
取 組 状 況	①就学援助制度による学校諸経費、学用品費、給食費、校外活動・修学旅行費等の支援充実 ②小・中学校入学時の学用品費の入学前支給 ③新入生保護者会の活用や市長部局（こども支援部、生活支援課）との連携による就学援助制度の確実な周知							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	事業を継続し、内容の充実を図る。							
令 和 4 年 度 実 績	①申請に基づき、審査のうえ実施 ②12月と3月に実施 ③16校及び各課と連携して実施							
指 標 及 び 説 明	【指標】 設定困難		【説明】 -					
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	-	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		-	平時					-
		R2有事	-					R8有事
-	-					-		
自 己 評 価 の 主 な 理 由	計画通り、実施出来た。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、内容の充実を図る。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

施 策	(1) 学校教育体制及び学習環境の充実			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学校経営の充実	学校教育課	A	B
	ICT機器を活用した支援	学校教育課	A	
	生徒指導・教育相談の充実	学校教育課	B	
	子ども未来室事業の推進	学校教育課	A	
	教材・図書等の充実	教育総務課	B	
	子育て家庭への経済的支援	学校教育課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	<p>「学校教育体制及び学習環境の充実」につきましては全体的に自己評価に「A」が多く、施策、事業の達成度、進捗が順調であると拝見しました。</p> <p>「学校経営の充実」につきましては、コミュニティ・スクールの試行が中学校2校で実施されるなど、学校、家庭、地域社会との関わりの中で豊かな学びを実現する大変よい実践かと思えます。この知見を活かして入間市全体にコミュニティ・スクールの輪が広がることを願っております。このように「地域に開かれた学校」が求められる中、一方で全国的には不審者が侵入する事件が後を絶ちません。小学校に市民菜園などを併設して、就学児童がいない世代の人たちも学校に親しめる仕組み等を整え、地域の「目」があることを前向きにとらえ、地域の真ん中に学校を据えて地域が学校を守ることも考えていただきたいと思います。</p> <p>「ICT機器を活用した支援」につきましては、教師と児童生徒がタブレット端末を通して意見の交流や課題の提出などを行うことができ、活用の幅が広がり自己評価として「A」となっております。ICT機器の活用が浸透してきている様子がうかがえますが、側面からの評価として教員研修後の満足度調査が可能かと思われますので今後の指標としてご検討いただけますと幸いです。withコロナの時代ならではのアクティブラーニングやタブレット端末使用による宿題により、児童生徒が充実した学びを得るだけでなく、教員側の負担軽減にも繋がることを願っております。</p>			

また、「①全体を通した評価」において前述した対話型AIの活用に関しては今後取り組むべき大きな課題になるかと思われます。

「生徒指導・教育相談の充実」に関して報告書のP.13の自己評価では「B」となっておりますが、P.16の評価では「C」と記載されております。整合性を図るようお願い致します。(訂正済)

「令和4年度入間市の教育」には、「生徒指導・教育相談体制の整備、いじめ問題の対応や不登校の児童生徒に対する支援、適応指導教室の充実を図ります。」とあります。いじめの問題に関しては指標としていじめ解消率が示され、取り組みとその評価は理解することができますが、不登校の児童生徒に関する取り組みと評価が見当たりません。いじめと不登校については非常に大きな問題であるため、場合によっては「主な取組」の項目を分けて取り組まれた方がよいかもしれません。どちらも多様で複雑化した現代的課題かと思っておりますので、丁寧に事業を推進していただきたいと思っております。

「子ども未来室事業の推進」については入間市の特徴的な事業かと思っております。自己評価では「A」とのことで、児童発達支援センターういずの会議への出席や国リハのCLM研修会に出席するなど、支援体制の整備がなされていると推察されました。また、インクルーシブ教育に向けた異校種間等のスムーズな接続の実施は必要不可欠となります。引き続き緊密な連携を保っていただきたいと思っております。

「教材・図書等の充実」については自己評価「B」とのことで、学校図書蔵書充足率による評価ですが、昨今のアクティブラーニングの推進などにより、調べ学習や発表のための資料を作成するために図書は欠かせない存在となってきています。そのため学校図書館の担う役割は、今後ますます大きくなっていくことと予想されます。蔵書を増やすことも大切ですが、地域の図書館と学校図書館が連携して、公立図書館が購入した電子書籍を、学校でも活用するという取り組みも必要かと思っております。地域図書館との連携や持続的可能な未来を考えると、ペーパーレスで借用人数の制限の無い汎用性の高い電子図書の導入も必要であると考えます。ペーパーの書籍のように修繕費用がかからず、視力に応じて文字のサイズ・フォントを変えられる、読み上げ機能を使って「聴く」ことも可能であるように多様性に対応できる図書であるメリットも考えられます。

「子育て家庭への経済的支援」においては、計画通り実施できたとのことで経済的に困難な状況にある児童生徒が学び、成長するための環境を提供することができたと評価されます。経済的な支援を実施することにより児童生徒は平等な教育の機会を得ることができ、学業に集中することができます。経済的な問題に悩まされることなく、すべての児童生徒が学業に取り組めるよう、引き続き事業の継続をするようお願い致します。

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P16

主な取組	学力向上の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取組状況	学校指導訪問による学校現場の実態把握や研究授業、充実した教職員研修を実施する。							
前年度の課題・改善点	学校指導訪問や教職員研修の実施についてはコロナ禍における実施方法の工夫をしながら取り組む必要がある。							
令和4年度実績	学校指導訪問は小学校8校、中学校5校で実施した。 学力向上に関する12種類の研修を市教委主催で行った。							
指標及び説明	【指標】家庭学習の実施率				【説明】確かな学力の習得につながる家庭学習			
	単位	現状値	実績値				目標値	
指標の推移	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		78.3	平時					85.0
		R2有事	64.4					R8有事
		81.7						—
自己評価の主な理由	教職員の資質向上のための指導訪問や研修を、コロナ禍における実施方法の工夫をしながら充実させることができたが、家庭学習の実施率の上昇にはつながらなかった。							
課題及び改善点	家庭学習の実施率を向上させるため、児童・生徒が主体的に学ぶ意欲を育てる手立てについて今後も研究し、教職員への研修・指導を行いたい。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P17

主な取組	豊かな心を育む教育の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取組状況	狭山茶とふれあう教育の充実及び様々な体験活動を実施する。							
前年度の課題・改善点	コロナ禍においても実施可能な事業の工夫改善を行う。							
令和4年度実績	狭山茶とふれあう教育に係る体験活動及び地域人材・地域教材を生かした学習指導は27校で実施した。 博物館学習を通じた郷土教育は27校で実施した。							
指標及び説明	【指標】ふるさと入間への関心度				【説明】国や県の学習状況調査により、関心度の高まりを調査する。			
	単位	現状値	実績値				目標値	
指標の推移	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		61.9	平時					80.0
		R2有事	52.4					R8有事
		—						—
自己評価の主な理由	体験活動は、形を変え一部実施できた。狭山茶とふれあう教育については盆点前授業が中学校11校で実施できた。博物館学習は、小学校3年生、6年生、中学校2年生(2校2年生)すべて実施できた。							
課題及び改善点	職場体験については、今年度は各中学校を会場に代替事業を行った。来年度は事業所にて実施できるよう計画したい。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P17

主 な 取 組	健康・安全教育及び食育の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取 組 状 況	交通安全並びに防災教育及び食に関する指導や推奨を行う。							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。							
令 和 4 年 度 実 績	①小4対象の自転車免許取得の安全教室を全校で実施した。 ②全小中学校で計画的に防災訓練を実施した。 ③「早寝、早起き、朝ごはんの推奨」「食に関する指導」を全小中学校で実施した。							
指 標 及 び 説 明	【指標】 設定困難				【説明】 -			
	単 位	現 状 値	実 績 値				目 標 値	
指 標 の 推 移	-	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		-	平時					-
		R2有事	-					R8有事
		-						-
自 己 評 価 の 主 な 理 由	計画していた事業内容はほぼ実施することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	コロナ禍で制限があった部分を少しずつ元通りにし、内容のさらなる充実を図る。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P17

主 な 取 組	体力向上の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取 組 状 況	①体育授業、体育的活動量の量的確保と指導内容の充実。 ②新体力テストの結果分析を生かした指導及び体育指導の質的向上を目指した研修。 ③体力向上を目指した教育活動の工夫改善と学校への支援の充実。							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	コロナ禍において実施が難しい活動について、可能な範囲で質的確保を図る。							
令 和 4 年 度 実 績	事業を継続し、内容の充実を図った。							
指 標 及 び 説 明	【指標】 設定困難				【説明】 -			
	単 位	現 状 値	実 績 値				目 標 値	
指 標 の 推 移	-	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		-	平時					-
		R2有事	-					R8有事
		-						-
自 己 評 価 の 主 な 理 由	コロナ禍ではあったが、可能な範囲で質・量的確保を図ることができたため。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、内容の充実を図る。							

施 策	(2) 学校教育内容の充実			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学力向上の充実	学校教育課	B	B
	豊かな心を育む教育の推進	学校教育課	B	
	健康・安全教育及び食育の推進	学校教育課	A	
体力向上の充実	学校教育課	B		
学 識 経 験 者 等 意 見	<p>「学校教育内容の充実」につきましては全体的に自己評価に「B」が多く、施策、事業の達成度、進捗が概ね順調であると拝見しました。</p> <p>「学力向上の充実」につきましては、「令和4年度全国学力・学習状況調査」における生徒質問紙調査の結果において「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の項目が埼玉県平均や全国平均よりも大きく下回っていることから家庭学習の実施率により自己評価がなされたのは妥当だと判断致しました。今後は家庭学習の実施率が上がるように学習スケジュールの立案支援や、学習の成果や進歩を賞賛し、認めること等の工夫が大切かと思えます。小さな成功に対しても褒めたり、学習の成果を家族や友人と共有したりすることで、学習へのモチベーションを高めるような手立てが必要かと思えます。</p> <p>「豊かな心を育む教育の推進」については、狭山茶と触れあう教育として実施されている小学校の茶摘み体験、手もみ茶体験、中学校の茶道体験はコミュニティ・スクールの中核を担うものであり、入間市の大きな特徴であると考えます。昨年度はコロナ禍により本来の活動ができなかったため自己評価が「B」でしたが、入間市ならではの取り組みであるので、体験活動を徐々に増やす方向で今後も引き続き事業を継続していくことを望みます。</p> <p>「体力向上」につきましては、コロナ禍の影響による児童生徒の体力低下が問題となっております。新型コロナウイルス感染防止の生活が続く中、児童生徒たちも運動の時間が減っていることは事実ですが、この結果を軽視することなく体力向上に取り組んでいてもらいたいと思えます。新体力テストの結果の推移を基に日頃の実践を見直すことでもできるかと思えますので、指標として新体力テストの結果をご検討いただけますと幸いです。</p>			

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第2項 幼児教育の充実

【施策】 (1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P18

主な取組	子ども未来室事業の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取組状況	①子ども未来室巡回支援の充実（就学相談、WISC 検査後のフォロー巡回等） ②児童発達支援センター、こども支援課の窓口相談業務の打ち合わせ会 ③SSW 会議の充実（ヤングケアラー支援条例に伴う児童生徒の関わり方の理解促進）							
前年度の課題・改善点	コロナ禍においても、子ども未来室事業を展開できる事業の工夫改善を行う。							
令和4年度実績	①全ての施設について巡回支援を実施できた ②相談窓口担当者による互いの相談内容の理解と丁寧なファーストコンタクトができた ③毎月行う SSW 会議にて子ども支援部や福祉部職員と合同で事例検討を行った							
指標及び説明	【指標】 設定困難			【説明】 -				
	単位	現状値	実績値					目標値
指標の推移	-	R1 平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8 平時
		-	平時					-
		R2 有事	-					R8 有事
		-						-
自己評価の主な理由	他課との連携において、積極的な職員交流ができたため。							
課題及び改善点	臨床心理士、作業療法士、SSW 等専門職の業務について今後工夫していく必要がある。不登校及び不登校傾向の児童生徒への対応については、改善策がまだあると考える。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第2項 幼児教育の充実

【施策】 (1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P18

主な取組	幼児の通級指導教室を通じた支援						担当課	自己評価
							学校教育課	A
取組状況	①幼児の通級指導教室「茶おちゃお」における活動。 ②「茶おちゃお」に在籍する幼児の保護者を対象としたペアレントサポート講座の実施。 ③「茶おちゃお」に在籍の幼児が入学を予定している小学校との情報交換会の実施。							
前年度の課題・改善点	コロナ禍においても活動の継続が可能な実施方法を検討し、内容の充実を図る。							
令和4年度実績	①コロナ禍においても幼児への指導内容を工夫することで、集団生活に向けた準備を行うことができた。 ②保護者のニーズに応じた講座が実施できた。 ③対象となる小学校全てにおいて情報交換会を実施することができた。							
指標及び説明	【指標】 小学校との情報交換会の実施率			【指標】 「茶おちゃお」に在籍の幼児が入学を予定している小学校との情報交換会の実施率				
	単位	現状値	実績値					目標値
指標の推移	%	R1 平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8 平時
		100	平時					100
		R2 有事	100					R8 有事
		100						-
自己評価の主な理由	コロナ禍ではあったが、茶おちゃおの活動・ペアレントサポート講座の実施ができたため。							
課題及び改善点	事業を継続していく中で、親へのサポートも課題として検討していく必要がある。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第2項 幼児教育の充実

【施策】(1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P18

主な取組	保護者への情報提供と支援						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取組状況	①親の学習講座の実施（オンラインと施設訪問、児童センター、茶おちゃお等） ②ペアレントサポート講座（茶おちゃお保護者、元気キッズ保護者等）							
前年度の課題・改善点	コロナ禍における親の学習講座オンライン実施の検討。							
令和4年度実績	①親の学習講座の実施（オンライン開催、施設訪問開催） ②ペアレントサポート講座の実施（教育部とこども支援部合同開催）							
指標及び説明	【指標】設定困難				【説明】－			
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	－	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		－	平時					－
		R2有事	－					R8有事
－							－	
自己評価の主な理由	親の学習講座をオンラインで開催することができたのは良かったが、子育てに対する不安の軽減については、今後も工夫改善していく必要があるため。							
課題及び改善点	親の悩み相談をオンラインやメール相談で受け付ける体制づくりやペアレントサポート講座を実施できる職員の人材育成が必要である。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第2項 幼児教育の充実

【施策】(1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P18

主な取組	保幼小中連携・接続研修会の実施						担当課	自己評価
							学校教育課	B
取組状況	保育士・教諭等を対象とする発達障害への適切な対応と支援方法を学ぶ研修会の実施。							
前年度の課題・改善点	コロナ禍においても開催可能な実施方法を検討し、内容の充実を図る。							
令和4年度実績	予定通り2回の研修を開催した。（すべてオンデマンド配信）							
指標及び説明	【指標】研修の実施回数				【説明】保育士・教諭等が参加する研修の実施			
指標の推移	単位	現状値	実績値					目標値
	回	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		2	平時					2
		R2有事	2					R8有事
1							－	
自己評価の主な理由	オンデマンド配信により参加者を制限することなく研修会を実施できたが、保幼小中連携には保育士・教諭等の交流も必要であることから、今後も工夫改善していく必要があるため。							
課題及び改善点	保育士・教諭等の交流という視点で考えた際、参集型の研修についても検討が必要である。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第2項 幼児教育の充実

【施策】 (1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P18

主 な 取 組	幼稚園就園世帯への支援						担当課	自己評価
							保育幼稚園課	A
取 組 状 況	幼児教育・保育の無償化事業による入園料・保育料の補助、給食費のうち副食費分に対する補助等を実施し、幼児教育にかかる経済的負担の軽減を図ります。							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	副食費分に関する補助について、申請者が想定を下回りました。(対象者は多子世帯や所得制限など該当条件あり)(申請案内は施設を介し該当者に案内しています)							
令 和 4 年 度 実 績	保育料等は毎月各園からの請求により補助(支払い)実施しています。副食費補助は年度末一括補助のため、令和4年度分はこれから申請受付となります。							
指 標 及 び 説 明	【指標】 設定困難			【説明】 -				
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	-	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		-	平時					-
	-	R2有事	-					R8有事
-							-	
自 己 評 価 の 主 な 理 由	対象者からの申請による補助のため毎年度申請数等が異なり、目標件数・金額等として設定はできませんが、申請受付分に対する補助は実施出来ているため。							
課 題 及 び 改 善 点	-							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第2項 幼児教育の充実

施 策	(1) 幼児教育の環境整備			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	子ども未来室事業の推進	学校教育課	A	B
	幼児の通級指導を通じた支援	学校教育課	A	
	保護者への情報提供と支援	学校教育課	B	
	保幼小中連携・接続研修会の実施	学校教育課	B	
	幼稚園就園世帯への支援	保育幼稚園課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	<p>全体的に自己評価に「A」が多く、施策、事業の達成度、進捗が順調であると拝見しました。</p> <p>「子ども未来室事業の推進」については、「課題及び改善点」の欄に「不登校及び不登校傾向の児童生徒への対応については、改善策がまだあると考える」とありますが、「(1)幼児教育」の内容のため対象は幼児になるかと思えます。おそらく「子ども未来室事業の推進」の取組は「第1項 学校教育の充実」と「第2項 幼児教育の充実」の双方にあるためこのような記述になったかと思えますが、いま一度内容のご確認をよろしくお願い致します。</p> <p>「幼児の通級指導を通じた支援」においては、通級指導教室「茶おちゃお」在籍の幼児が入学を予定している小学校との情報交換会の実施率が100%であったことは大変評価されます。小学校に入学する幼児・保護者は不安を多く抱え、受け入れる小学校側も見通しが持てない不安があるため、スムーズな移行のためにも連携、引継ぎは大変重要であると考えます。</p> <p>「保護者への情報提供と支援」につきましては、親の学習講座、ペアレントサポート講座の実施がなされていたとのことで、大変重要な取り組みがなされていると考えます。評価の指標設定が難しいかとは思いますが、参加者数の把握、参加者による満足度アンケート等の実施による評価は可能かと思われます。ご検討の程よろしくお願い致します。</p> <p>「保幼小中連携・接続研修会の実施」につきましては、小1プロブレム、中1ギャップや不登校を解消する重要な研修会であると認識しております。本研修会ではオンデマンド配信により参加者の制限なく実施できた点は評価されますが、課題及び改善点に書かれていたように参集型の研修の実施が必要であると考えます。子どもたちを見守る保育士や幼稚園教諭、小学校教諭、中学</p>			

	<p>校教諭が会し、積極的にコミュニケーションを図り、お互いの教育観や保育観を知る機会を設けることが必要となります。定期的に交流会や研修会を開催し、子どもたちが幼児期や学童期にどのような生活を送っているのか、学習や遊びの環境について理解を深めることも大切になります。会場、日程調整等の面で難しい面はあるかと思いますが、参集型の研修実施の実施をご検討の程よろしくお願い致します。</p> <p>「幼稚園就園世帯への支援」につきましては、副食費分に対する補助等が実施され、幼児教育にかかる経済的負担の軽減が図られており、評価されます。今後も引き続き丁寧に進めていっていただきたいと思います。</p>
--	---

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第3項 学校施設の整備

【施策】(1) 学校施設の充実・最適化

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P19

主な取組	校舎・屋内運動場の整備		担当課	自己評価				
			教育総務課	A				
取組状況	<p>○小中学校施設における維持管理 ○小中学校施設における整備事業の計画的な推進 (1) 藤沢北小学校校舎便所改修工事 (2) 扇小学校屋内運動場共用便所改修等工事 (3) 豊岡小学校外15校職員女子便所大便器改修工事 (4) 東町小学校屋内運動場外壁等改修工事 (5) 上藤沢中学校屋内運動場外壁等改修工事 (6) 藤沢小学校外5校障がい者用駐車場設置工事 (7) 宮寺小学校消防設備改修工事 (令和3年度繰越し事業) ほか</p>							
前年度の課題・改善点	<p>老朽化に起因した不測の事態が生じたり、近年は天候不順による災害など、不測の事態となるケースがあるため、関係各課との連携を強化している。市及び市民の防災への意識が向上しており、災害時の避難所となる屋内運動場の雨漏りや男女別トイレ、多目的トイレの改修なども計画的に進め、校舎のトイレ改修など時代に適した施設整備を進めていく必要がある。また、令和3年度から35人学級編制が開始されたことや、バリアフリー法の改正により、これまでの学校施設整備に加え、新たな課題もあるため、公共施設マネジメント事業計画や、教育委員会の『入間市立小・中学校の適正化に関する基本方針』に基づき、統廃合や大規模改修、長寿命化、改築工事等を計画的に進めていかなければならない。修繕をしても、新たに指摘が出る状況に変わりはないが、徐々に指摘事項が減少傾向に転じており、限られた財源ではあるが、指摘事項の一覧を基に引き続き改善していく必要がある。また、適切な樹木管理についても継続的に実施していく。</p>							
令和4年度実績	維持管理に係る事業数：124事業 施設整備に係る事業数：32事業							
指標及び説明	【指標】年度当初に計画した事業数		【説明】実施が完了した事業数で判断する。					
指標の推移	単位	現状値	実績値				目標値	
	事業	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		151	平時					150
		R2有事	156					R8有事
152		—						
自己評価の主な理由	<p>計画した事業のうち、1事業については近年の世界情勢により年度内に部品の納入ができない状況となり、繰越し事業となったが、この他、滞りなく事業を実施した。また、各施設の維持管理、設備の保守点検は目標どおり実施するとともに、各学校で課題となっている樹木についても、伐採や剪定等適切に行い、目標を達成した。</p>							
課題及び改善点	<p>継続的な事業であるため、課題についてはこれまでと変わらない。ただし、昨年度に引き続き各学校で課題となっている著しく生長した樹木や、老木等を中心に伐採や強剪定を行うと共に、全小中学校の伐採対象樹木の調査し取りまとめを行った。今後は、調査結果を基に樹木の伐採計画等を策定していく。</p>							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第3項 学校施設の整備

施 策		(1) 学校施設の充実・最適化			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価	総合評価
	校舎・屋内運動場の整備		教育総務課	A	A
学 識 経 験 者 意 見 等	<p>自己評価が「A」であり、施策、事業の達成度、進捗が順調であると拝見しました。消費者安全調査委員会の調査によると、学校施設の老朽化が原因と思われる重大事故が毎年60件程度発生しております。文部科学省も、外壁の落下など安全面の不具合を生じた学校施設は5年間で約2倍に増加したとの指摘があります。劣化・損傷は大規模改修や長寿命化改修の改修サイクルよりも短い期間で発生するため、長期的な修繕計画がある場合であっても、定期的に点検を実施し、必要な修繕等を行うことが不可欠であると考えます。引き続き丁寧に事業を推進していただきたいと思ひます。</p> <p>その一方で、学校には大きく丈夫に見える樹木であっても、樹種によっては幹の内部が腐朽していたりすることがあり、台風や大雨により倒木するケースも見られています。現在、伐採対象樹木の調査が行われ、今後計画的に伐採されるかと思ひます。学校内で子どもたちが使う施設や設備については、学校保健安全法の施行規則で学期ごとに1回以上の定期の安全点検が義務づけられています。ところが樹木については安全かどうかの確認は具体的に示されておりません。樹木を診るプロ、樹木医に連絡を取り、点検をお願いする等の工夫もよいかと思ひます。</p>				

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第3項 学校施設の整備

【施策】(2) 学校給食施設・設備の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P20

主 な 取 組	学校給食センター施設・設備の整備		担当課	自己評価				
			学校給食課	B				
取 組 状 況	老朽化した施設・設備を修繕等によって維持し、給食提供を継続していく。また、令和8年8月からの運用開始に向けて、施設整備に必要な基本事項を取りまとめた整備基本計画の策定を行ったうえで、学校給食センターの更新を行う。							
前 年 度 の 課 題 ・ 改 善 点	現在の学校給食センターは、建物や設備の老朽化が進んでおり、令和8年8月から新たな学校給食センターで運用を開始するまでは、安定した学校給食を提供する必要がある。また、新たな学校給食センターの施設のあり方を総合的に検証・検討していく必要がある。							
令 和 4 年 度 実 績	経年劣化した施設・設備を修繕することで、適切な維持管理が図られ、給食提供を継続することができた。また、整備基本構想及び整備基本計画の策定を行ったうえで、学校給食センター基本設計・実施設計業務委託を発注した。							
指 標 及 び 説 明	【指標】学校給食センター更新進捗率		【説明】建て替えの進捗率により、学校施設の充実度を判断する。					
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		5	平時					100
		R2有事	25					R8有事
10						100		
自 己 評 価 の 主 な 理 由	各種計画の策定、基本設計・実施設計業務委託の発注、建設予定地の鑑定評価及び測量を行うなど、令和8年8月の運用開始に向けて、大きく前進することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	土地所有者と用地交渉を行いました。契約締結には至らなかったため、粘り強く交渉を続ける必要がある。また、基本設計・実施設計業務委託の終期である令和6年5月末に向け、タスク管理表に基づく設計に必要な条件を明確にして、設計等を遅滞なく進める必要がある。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第3項 学校施設の整備

【施策】(2) 学校給食施設・設備の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P20

主な取組	自校給食施設・設備の整備				担当課	自己評価	
					学校給食課	B	
取組状況	老朽化した調理機器類を更新したことで、作業効率が上がり、安全で衛生管理の徹底及び調理機器等の充実に努めた。						
前年度の課題・改善点	自校（小学校）給食施設には空調設備が無いため、調理場内の温度調節が困難である。夏場の調理環境と衛生管理を向上させるために、スチームコンベクションオープン及び真空冷却機の設置を進める必要があるが、既に設置されている小学校もあれば、未設置の小学校もある。						
令和4年度実績	3つの小学校にスチームコンベクションオープンを、2つの小学校に真空冷却機を設置した。						
指標及び説明	【指標】スチームコンベクションオープン及び真空冷却機設置率			【説明】未設置校への設置を計画的に進め、設置の進捗により判断する。			
指標の推移	単位	現状値	実績値				目標値
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8
		13	平時				
		R2有事	50				
22							
自己評価の主な理由	スチームコンベクションオープン及び真空冷却機を導入したことにより、夏場の調理環境と衛生管理が向上し、献立の充実が図られた。						
課題及び改善点	設置校と未設置校との格差を無くすため、計画的に設置を進める必要がある。						

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第3項 学校施設の整備

施策	(2) 学校給食施設・設備の充実			
施策評価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学校給食センター施設・設備の整備	学校給食課	B	B
	自校給食施設・設備の整備	学校給食課	B	
学識経験者意見等	自己評価が「B」であり、施策、事業の達成度、進捗がおおむね順調であると拝見しました。「学校給食センター施設・設備の整備」、「自校給食施設・設備の整備」につきましては、給食センターでは経年劣化した施設・設備を修繕することで、適切な維持管理が図られ、給食提供をすることができたことや、自校給食ではスチームコンベクションオープンや真空冷却器の設置が実績として挙げられております。学校給食センターや自校給食では、衛生基準を厳密に遵守する必要があります。食材の保管方法や調理場の清潔さ、食器等の洗浄方法などに関する基準を守ることは重要です。施設や設備の不備により、衛生上のリスクが生じる可能性もあります。また、大量の食事を提供するために調理機器や冷却装置を常に稼働させる必要があります。設備のエネルギー効率が低い場合、電力消費が増加し、運営コストが上昇する可能性があります。以上のことから今後も引き続き丁寧に進めていっていただきたいと思っております。			